

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
分担研究報告書

新型コロナウイルス感染症に対する院内および
施設内感染対策の確立に向けた研究

研究分担者 柳原 克紀 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学分野 教授

研究要旨

新型コロナウイルス感染症に対する院内および施設内感染対策の確立において、検査の使い方および検体の採取方法は極めて重要である。本研究では、「各種検査の考え方」を提唱し、さらに、鼻腔拭い液検体および唾液検体の自己採取/医療者採取法の資料作成および解説と動画を作成し、公開した。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症に対する院内および施設内感染対策において、適切な検査の使い方は極めて重要である。そのため、これまでに得られた知見をまとめ、各種検査の考え方を提唱することを目的とする。

また、新型コロナウイルスの検査には、鼻咽頭拭い液に加え、鼻腔拭い液検体や唾液検体が用いられる。鼻腔拭い液や唾液は自己採取可能な検体であるため、検体採取者に対して視覚的に理解しやすい方法を公開する必要がある。感染対策を行いながら、検体を確実に採取し、検体の質を高めるために、正しい検体採取方法を普及させることを目的とする。

B. 研究方法

「各種検査の考え方」を提唱する。また、鼻腔拭い液検体と唾液検体それぞれの医療者による採取法と自己採取法を、スライドによる資料作成および解説と、実際の手技を動画制作により公表する。

C. 研究結果

検体や検査の選択のため、＜各種検査の使い方＞を公開した。また、唾液検体自己採取法、鼻腔拭い液検体自己採取/医療者採取法の資料作成および解説と動画を作成し、下記URLに公開した。

<http://www.tohoku-icnet.ac/covid-19/mh1w-wg/division/inspection.html>

D. 考察

COVID-19の感染拡大により、日常的に感染症診療を行っていない施設等においても、大量の検体を採取し、検査を行う必要性が生じ

た。そのような場合、正しい検体採取法と検査の選択が必須であるが、十分な情報は限られていた。特に、鼻腔拭い液や唾液の採取方法については、これまで定まった方法が広く周知されていなかった。本研究により、場所や時間を問わずアクセスすることが可能なインターネット上に、検査に関する情報を公開することができ、施設内感染における検査対策に貢献することができたと考えられる。

E. 結論

各種検査の使い方および検体採取方法を公開し、普及のための啓発を行った。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

該当せず

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

なし

